

4. 馬宮地区社協のあゆみと社会福祉

明治 22 年	旧馬宮村誕生(遊馬村・土屋村・二ツ宮村・飯田新田・植田谷本村新田合併)
昭和 3 年	方面委員(のちの民生委員)制度が全国的に普及。(馬宮村 4 名)
昭和 15 年	大宮市誕生(大宮町・日進村・三橋村・宮原村・大砂土村が合併)
昭和 21 年	民生委員連盟が発足。
昭和 23 年	大宮市社会事業協会設立(のちの社会福祉協議会)
昭和 26 年 ↓	埼玉県社会福祉協議会・中央社会福祉協議会(のちの全国社会福祉協議会)・大宮市社会福祉協議会の設立。当時、馬宮地区の福祉は歴代村長の命を受けた、役場や農協職員・生活改善普及員等によって、推進されていたと思われる。
昭和 30 年 ↓	馬宮村、大宮市と合併。 馬宮地区社協の開設について正式な記録は無く、昭和 54 年当時を知る人の記憶によれば、既に開設されていたらしいが、それ以前の詳細は不明。
昭和 56 年	大宮市社協の事業計画(16 地区社協との連携)に於いて、馬宮地区社協(会長:清水金弥氏 S56.5~H2.3)が「地域福祉活動モデル地区」に指定された。
平成 2 年	馬宮地区社協会長交代、安藤福衛氏就任。 第 1 回「会食の集い」が馬宮公民館にて開催される。 (平成 4 年 6 月より 8 月を除く毎月第 1 火曜の開催となる)
平成 3 年	馬宮地区社協「会則と部会要綱」が発足。顧問をおき総務部・運動部・厚生部の 3 部会が設置される。 民生委員 13 名・自治会長 22 名・老人クラブ 会長 14 名の計 49 名の理事で、会長宅を事務所とし、募金活動や馬宮地区合同敬老会(馬宮東小学校体育館にて)、ゲートボール大会(年 2 回)等の事業を展開していた。
平成 9 年	常任理事を置く。合同敬老会の会場を西楽園に移す。
平成 11 年	宅配食事サービスの開始。 馬宮地区地域福祉行動計画 (5 ヶ年)の策定(11~15 年度)
平成 12 年	馬宮地区社協事務所の開設(二ツ宮)。 新会則の発足(総務部・広報部・事業部に改める)。 コーディネーターの設置。 広報紙「ふれあい馬宮」の創刊。
平成 13 年	大宮・浦和・与野 3 市が合併、さいたま市誕生。それに伴い大宮・浦和・与野市各社会福祉協議会は解散、さいたま市社会福祉協議会に統合。

平成 15 年	馬宮地区社協事務所の移転(現在の馬宮コミュニティセンター2 階)
平成 18 年	馬宮地区社協会長交代、 内野勲氏就任。 相談役を置く。
平成 19 年	馬宮地区第 2 次地域福祉行動計画の策定(2008～2012 年) 馬宮地区合同視察研修会の開催(1 泊)
平成 20 年	馬宮地区高齢者地域ケア・ネットワーク委員会(見守り制度)の開催。
平成 21 年	馬宮地区見守り制度の開始。自治会ごとに福祉委員を配置、見守り推進委員会を開催する。 馬宮地区合同敬老会式典を馬宮コミュニティセンター多目的ホールにて開催する。
平成 22 年	馬宮地区社協会長交代。 矢部恒男氏就任。
平成 24 年	馬宮地区第 3 次地域福祉行動計画の策定(2013～2017 年) 馬宮地区合同敬老会式典を中止する。(自治会ごとに開催) 馬宮地区地域福祉に関するニーズ調査(アンケート)の実施。
平成 25 年	ボランティア部会の設置。
平成 26 年	常任理事の廃止・事務局(役員会)の設置。
平成 27 年	まごころ基金の開始。
平成 28 年	馬宮地区社協会長交代。岡田悟氏就任。 ホームページの開設。 高齢者の増加に伴い会食の集いを 2 グループに分け隔月参加とする。 開催回数に変更せず。 弥生ふれあい会の開始。
平成 29 年	馬宮地区第 4 次地域福祉行動計画の策定(2018～2022 年) 支部見守り推進委員会を開催。福祉委員(見守り推進委員)に対し委嘱状の交付を始める。
平成 30 年	子育てサロン「ひだまり」スタート。
令和 2 年	ボランティア部会の総務部会統合。福祉サービス分科会改め会食部会に、地域福祉分科会改め事業部会になる。
令和 4 年	馬宮地区第 5 次地域福祉行動計画の策定(2023～2027 年)
令和 6 年	馬宮地区市協会長交代。 木下國臣氏就任。 高齢者見守り活動助成金制度(申請式)を開始。
令和 8 年	ボランティア登録制度を開始。 HP リニューアル